

令和7年度 都城市立有水小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立有水小学校		校長名	横山 武志	
学級数	6	児童生徒数	38名	職員数	13名
教育目標	自ら考え 進んで行動する 心豊かな児童の育成(自律・自立)				

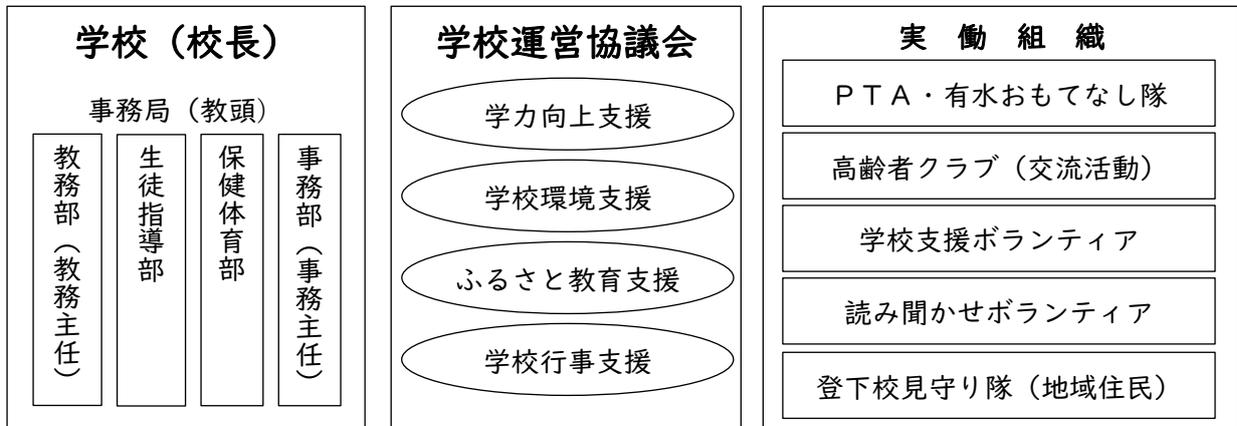
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員 (計8名)・事務局 (計2名)

No.	所属名 (役職)	氏名	備考
1	15区自治公民館長 (委員長)	石田 操	会長・地域コーディネーター
2	元PTA会長(委員)	小林 清明	
3	13区民生委員児童委員 (委員)	平野 正行	
4	16区民生委員児童委員 (委員)	坂元 京子	
5	14区民生委員児童委員 (委員)	笹葉 照明	
6	前有水幼稚園保護者会会長 (委員)	阿多 克郎	
7	前PTA会長(委員)	久保 武樹	
8	PTA会長(委員)	有水 絵美	

事務局	役職	氏名
	校長	横山 武志
	教頭	比江嶋 哲

(2) 組織編制



3 年間の活動計画

月 日	主な活動及び内容
4月23日	・学校運営協議会委員選出
4月23日	・第1回学校運営協議会 (委嘱状交付、学校経営説明、協議) 有水中学校と合同開催
5月17日	・有水スポーツフェスタへの参席
6月27日	・第2回学校運営協議会 (学校運営の状況について、学校評価の年間計画と評価方針・内容等について、地域と連携・協働した活動の在り方、ふれあい給食、授業参観)
9月 5日	・第3回学校運営協議会 (前期学校評価の説明・協議、地域懇談会の説明・協議等)
1月22日	・第4回学校運営協議会 (後期学校評価結果報告・協議、授業参観)
2月27日	・第5回学校運営協議会 (授業参観、次年度のビジョンについて協議・意見交換)
(予定)	
3月	・学校評価・報告書の公開

4 今年度実施した「熟議」のテーマ

4月：「子どものために何ができるか」（保護者・学校運営協議会委員・職員の熟議）

9月：「地域懇談会で出た内容を具体化していこう」（学校運営協議会委員の熟議）

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

学校運営協議会では、地域の人とのふれあい活動、見守り活動、グリーン（緑化）活動、クリーン（清掃）活動、あいさつ運動を充実させていきたいという意見が出された。

そこで、学校運営協議会で学校の職員が必要としている人などについて、地域コーディネーターを中心にミシン操作補助や昔の有水地区の講話（写真1）など10以上の活動の支援をしていただいた。活動のねらいを十分に把握された補助となり非常に充実した活動となった。



【写真1：「昔の有水地区」の講話】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

前期の学校評価で、児童の歯磨きや立腰に課題があるという意見を受けて、学級活動の時間の中で、養護教諭や外部講師を招いて、歯や目などの保健指導を重点的に行うようにした。（写真2）学年を分けて行うことで、指導の充実を図ることができた。

また、地域とのふれあいを充実するという意見を取り入れて、地域の方を招いて、クラブ活動で「ポッチャ・スカットボール」などの交流活動を行った。



【写真2：養護教諭の保健指導】

(3) 地域貢献活動

学校運営協議会の方々と一緒に毎年行う、「クリーン活動」の他、今年創立150周年に伴うPTAと一緒にいる清掃活動や「道守活動」で地域の工事関係者と一緒に行う国道10号線の清掃活動（写真3）などを実施した。

また、有水地区の伝統芸能として存続が危惧されている「有水鉦踊り」についても、授業や150周年記念式典に取り入れ、例年以上に児童が参加し、多くの方に周知することができた。



【写真3：国道10号線沿いの清掃活動】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 地域素材・人材の活用については8割、情報提供については9割以上の保護者が肯定的評価をしている。地域学習の充実が見られた。
- 9割以上の児童が主体的な学習について肯定的評価をしており、10ポイント以上の改善がみられた。教職員の意識の変容も大きく向上している。
- 家庭や地域の教育力の変容については、職員・地域住民などと熟議を重ねることで学校への関心を高め、課題や伸ばしていく部分を共有することができた。
- 家庭の教育力の向上など、委員と保護者でより課題を共有して取り組めるよう工夫したい。
- これまでの地域との連携の実績を教育課程に反映させて実施していきたい。

7 次年度の方向性

- 本年度の熟議のよって、課題となる項目が出てきたので、次年度以降さらに学校運営協議会などで具体的な方策を検討して、課題解決に向けた取り組みをしていく。
- 学校運営協議会委員と職員の連携を図り、地域人材による学校支援をさらに推進していく。